

第4回定例会が開催されるに当たりまして、第3回定例会以降における行政執行の主なものについて、その概要を報告いたします。

公用スマートフォンの導入について

はじめに、公用スマートフォンの導入について申し上げます。
本市では、令和3年度に策定した「恵庭市デジタル化推進計画」において、デジタル技術を活用したスマート自治体を目指しておりますが、この実現に向けたデジタル基盤整備の一環として、本年8月に公用スマートフォンを導入いたしました。

今後は、全正職員が公用スマートフォンを活用し、「危機管理の迅速化」や「情報共有の迅速化」、「業務のデジタル化」を推進することで、市民サービスの向上を図って参ります。

恵庭市公式アプリ「えにわか」ポイント事業について

次に、恵庭市公式アプリ「えにわか」ポイント事業について申し上げます。

11月15日に、恵庭市公式アプリ「えにわか」のバージョンアップを行い、ポイント機能を追加しました。

ポイントの愛称は「えにポ」とし、イベントへの参加や市からのお知らせの閲覧などによりポイントが付与されるとともに、貯まったポイントで、利用者が市内の協賛店舗などによる独自のサービスを受けることができます。

今後、「えにポ」を貯める・使うことで、市民による行政情報の取得や事業への参加が拡がり、利用者が楽しみながらアプリを積極的に活用できるよう運用して参ります。

多文化共生事業について

次に、多文化共生事業について申し上げます。

本市では、市内の外国人住民と市民が触れ合いながら日本語を学べる場として「日本語ひろば」を毎月2回実施しており、これまで日本文化

や防災情報、健康などをテーマに開催したほか、「運動会」や「ハロウィンのランタン作り」を行ったところであります。

また、市民の異文化理解や外国人とのコミュニケーション機会の創出の場として、10月25日に市民団体「恵庭に暮らす外国人と地域をつなぐ会」と連携して『日本語スピーチ発表会』を開催し、11月16日には市主催の「多文化共生フェスタ」を開催したところであります。

今後も、様々な機会を捉えて、増加する在住外国人と市民の交流が促進され、外国人の方々にとっても住み良いまちづくりに取り組んで参ります。

恵み野地区におけるエリアマネジメントについて

次に、恵み野地区におけるエリアマネジメントについて申し上げます。

恵み野地区では、地域の街並みや景観を、地域が主体的に守ることを目的に、「恵み野商店街100年街並み協議会」が昨年9月に設立されたところであります。

このたび、同協議会と「恵み野商店街ストリートまちづくり連携協定」を11月1日に締結いたしました。

今後は、同協議会が進める商店街の景観維持や空き店舗対策等について、連携し取り組んで参ります。

ケアラーシンポジウムと骨髄等移植に関する普及啓発セミナーの開催について

次に、ケアラーシンポジウムと骨髄等移植に関する普及啓発セミナーの開催について申し上げます。

はじめに、「ケアラーについて理解を深めるシンポジウム2023」についてであります。9月9日、恵庭市民会館にて市民及び市内外の民生委員児童委員、学校、医療・福祉関係者およそ350名のご参加をいただき開催いたしました。^{にたえり}新田恵利さんによる基調講演に続き、パネリストとコーディネーター4名によるパネルディスカッションを行い、ケアラー、ヤングケアラーへの理解を深めることにつながられた

ものと考えております。

また、11月7日には、本市が共催となり「骨髄等移植に関する普及啓発セミナー」が、約300名のご参加をいただき恵庭市民会館大ホールで開催されました。本セミナーでは、フリーアナウンサーのかさいしんすけ笠井信輔氏による特別講演のほか、トークセッションも開催されるなど、骨髄等移植に関する理解促進が図られたものと認識しております。

今後も、ケアラー支援や骨髄等ドナー制度などの普及啓発を図るため様々な事業に取り組んで参ります。

新型コロナウイルス
ワクチン接種に
ついて

次に、新型コロナウイルスワクチン接種について申し上げます。

9月20日から「令和5年秋開始接種」を開始したところであり、10月末現在の対象者全体の接種状況では、約17パーセントの方が接種をしており、65歳以上の高齢者にあつては、約41パーセントの方が接種を完了しております。

今後とも特例臨時接種期間となる本年度末まで、引き続き市内医療機関を中心としたワクチン接種体制の中で、希望される方へのワクチン接種を進めて参ります。

農業振興について

次に、農業振興について申し上げます。

北海道農政事務所の「令和5年産水稻の作付面積および9月25日現在の予想収穫量」によりますと、作況指数は全道で104、本市を含む石狩管内でも104となり、作柄については「やや良」と公表されております。

石狩農業改良普及センターによりますと、水稻は6月中旬以降高温・多照で経過し、収穫まで順調でありましたが、8月の猛暑の影響により、しろみじゅくりゅう白未熟粒の混入が確認され、一部で品質への影響が懸念されることとあります。また、他の農作物につきましても、少雨と猛暑により、

ブロッコリーなどの一部の品目に生理障害が発生し、収穫量に影響があったと報告を受けております。

次に、市営牧場についてであります。5月22日、24日に入牧を行い、市内外の酪農家13戸より197頭の乳用牛を受け入れ、10月19日、20日の退牧日まで151日間の放牧を行い、生産者へ引き渡しを行ったところであります。

北海道における次世代半導体プロジェクトへの本市の対応について

次に、北海道における次世代半導体プロジェクトへの本市の対応について申し上げます。

10月31日から11月1日までの間、半導体メモリ製造工場が既に立地した岩手県の3つの自治体を本市の職員が視察し、これまでの取組状況などを伺ってきたところであります。

また、第3回定例会において議決いただいた補正予算による企業立地動向調査も開始したところであります。

今後も、ラピダスの進出による本市への影響に対応するため、これらの結果を参考に取組を進めて参ります。

物価高騰に係る経済対策について

次に、物価高騰に係る経済対策について申し上げます。

光熱費等の物価高騰の影響を受けた生活者に対する支援を目的として、現在、独自事業として「えにわ応援商品券」事業を実施しているところであります。商品券の発送につきましては、10月1日から29日までに完了し、受取後順次ご利用いただいているところであります。

更に、8月以降に出生及び転入された方への対応といたしまして、12月31日を基準日として対象者を再抽出し、2月上旬までに対象世帯へ商品券を発送する予定であります。

なお、利用期間につきましては、令和6年3月31日までとなっております。

秋のイベントについて

最後に、9月から10月にかけて実施されました、秋のイベントについて申し上げます。

9月9日に花の拠点「はなふる」において、「シン・えにわん産業祭2023 in はなふる」を開催し、約9,000人の方々にご来場いただきました。当日は、市内の企業による商品の販売や企業PRのほか、飲食やはたらく車の車両展示などを通じて本市の産業の魅力発信や、友好都市である藤枝市の特産品や連携商品の販売を行い、多くの来場者に楽しんでいただいたところであります。

9月24日には「Jリーグウォーキング in えにわ」を開催しました。ゲストに東京ヴェルディOB武田修宏氏ただのぶひろをお迎えし、市民80人を含む約250人の参加者が、さわやかな秋空の中、ウォーキングを楽しみました。

9月30日には「えにわ健康スポーツフェスティバル」を開催しました。「はなふる」ガーデンエリアに広がる芝生での「ヨガ」や「モルック」等のニュースポーツを体験し、大麻高校チアリーディング部の心を一つにした演技に感動し、延べ1,000人を超える参加者がスポーツの秋を満喫しました。

10月7日には、光と水の参加型イベントである「はなふるアートファンタジア」が開催され、会場では、参加者のデザインによるペットボトルランタンを「はなふる」噴水エリアに展示し、約3,000人の来場者が、光と水の幻想的な世界を楽しむ姿が見られました。

10月28日には、秋を代表する「ハッピーハロウィン」が開催され、ステージイベントや飲食のほか、ランタン製作体験やクイズなど子どもから大人まで楽しめる催しが行われ、会場では数多くのランタンカボチャが並べられ、約7,000人の来場者が幻想的な空間を楽しんでおりました。

これらのイベントのほか、花の拠点「はなふる」におきましては、

四季折々の事業が多く開催されており、引き続き、賑わいの創出と憩いの場としての公園利用を促進して参ります。

以上、第3回定例会以降における行政執行の主なものについて、その概要を報告いたしました。

なお、本議会に提案している議案等については、それぞれ上程の都度説明させていただきますので、よろしくご審議をいただき、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

